

## 2010.10.15「開き直るな、蓮舫大臣」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日は、議員宿舎でビデオレターを撮っています。昨日 10 月 14 日、私は参議院の予算委員会で質問をして参りました。小沢氏の問題について菅総理には国民に対して真摯にものを伝え、説明する気持ちが全くないことをが分かりました。

その他にも現政権の問題点を指摘して参りました。岡崎トミ子国家公安委員長は、平成 15 年に、ソウルで韓国の人達と一緒に、日の丸にバツ印を付けて反日運動のデモ行進に参加していました。警察は、日本の国家秩序を乱す活動をマークする機関です。岡崎氏がそれを調査する側の国家公安委員長に就任するということは、任命した菅総理は軽率のそしりを免れることができません。直ちに国家公安委員長は罷免するべきです。

また、蓮舫大臣にも問題が起きました。蓮舫大臣を国会内で撮った写真が、雑誌 VOGUE に掲載された問題です。私はこの問題を深く追及するつもりはなく、事実関係の確認のために、事務方に撮影許可が出た経緯を伺って参りました。国会内では商業目的で撮影することはできない旨を事務局が蓮舫大臣の事務所に説明したところ、蓮舫氏側からは政治活動としての撮影として申請があったということでした。

ところが、政治活動だと言っておきながら、実際には商業誌のモデルとして

使われていたのです。このことをインターネット等で事務局が知り、蓮舫事務所にそのことをただし、問題が生じると注意したのですが、その注意は無視され、雑誌が発売されてしまったということでした。私は以上のことを踏まえて質問したのですが、蓮舫大臣は、事務局が政治目的・議員活動と書けばいいと自分の事務所に言ったからだと言っていました。事務局の説明と蓮舫大臣の相反するものとなっているのです。

大臣は、自分の所管する全ての事業について、自分の直接の関与とは関係なくとも、最終的な責任を取らねばなりません。それは行政の長としての当然のことです。ましてや、今回の問題は、自身の政治活動に関することでありますから、自らの責任は免れません。にもかかわらず、蓮舫大臣は事務所の人間に責任を押し付け、事務所の人間は事務方に責任をなすりつけているのです。それを聞いていると、蓮舫大臣には大臣の資格は全くないと感じてしまいます。蓮舫大臣の答弁は、トップである鳩山氏、小沢氏、菅総理が自らの責任を明らかにせず、他人に責任を押し付け、追及されると強弁して開き直るのと同じなのです。私は、情けない気持ちでいっぱいになってしまいました。

これからも、菅内閣はモラルも道義もないということを、皆様方にしっかりと伝え、民主党政権を一日も早く終わらすためにがんばっていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。ありがとうございました。